

## 真の仏弟子として



勝林寺  
寺號

私たちの宗門では、春夏秋の三度、戦没者の追悼法事が営まれます。

春四月は大谷本廟で、夏八月は本願寺で、秋九月は東京の千鳥ヶ淵国立戦没者墓苑でご門主さまがご親修になります。

昨年九月十八日の千鳥ヶ淵墓苑の追悼法要に際してご門主さまがお示しくださいましたように、浄土真宗における「追掉」とは、戦死なさった軍人の靈魂だけを、しかも鎮めたり慰めたり祭つたりするのではなく、ひろくあの戦争の犠牲となられたかたがたのことを偲び、その戦争への慚愧（ざんき）と反省をとおして、私が新たに仏法に目覚めさせていただくことです。

ご門主さまのお言葉をお聞きながら、あの戦争という極限状況の中でも、お念佛をより前に、見事に生き抜き死に抜いていた「真の仏弟子」たち先輩のことを追悼し、ひるがえって今の私の生死（しようじ）をかえりみさせていただきたいと思います。

昭和十七・八年の頃かと思います。「満州へ行け。満州は王道樂土の新天地。開拓団に参加しよう。」といふ働きかけが山間の僻村に集中的になされました。毎晩のように行われる村の集会所での説得で、大方の人々が搖らぎ始めたとき、ひとりのお年寄りが立ち上がりて申しました。「満州というところにはお寺がありますか。毎日お説教のないようなどこ

ろにはとても住めません。お念佛なしのくらしは考えられません。」このことは一つで、ついにこの村は大きな惨禍を追い払つたのでした。

ご本典（親鸞聖人の著書『教行信証』）に

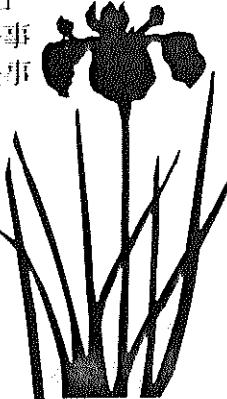
「仰ぎ願わくは一切の行者等、一心にただ仏語を信じて身命をかえりみず、決定して行によりて、仏の捨てしめたまうおばすなわち捨て、仏の行ぜしめたまうをばすなわち行す。仏の去らしめたまうおばすなわち去（す）。これを仏の教えに隨順し、仏の意（こころ）に隨順すと名づく。これを仏の願に隨順すと名づく。これを真の仏弟子と名づくるなり」

お念佛に呼び覚まされて、如來の無量無辺のいのちのなかに生まれかわらせていただいた者の、「真の仏弟子」としての生きかた死にかたをしめしてくださいます。

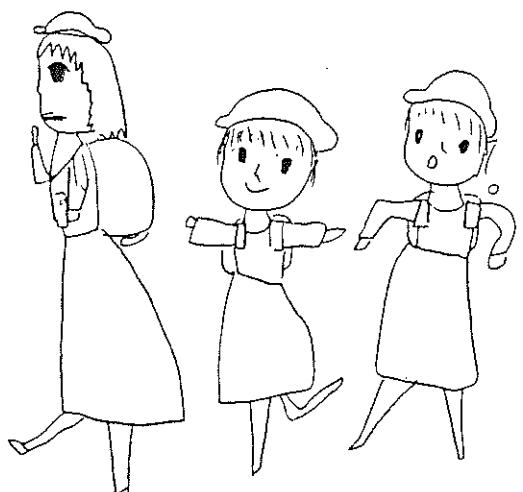
（大谷本廟教説部監修による西院法話）

## 五月のこよみ

- |         |                        |
|---------|------------------------|
| 1日      | 平田専福寺永代経               |
| 2日      | 同じ                     |
| 3日      | 谷垣嘆子氏方忌明憲法記念日          |
| 4日      | 大月忠男氏上法事               |
| 5日      | 中嶋英夫氏宅法事               |
| 6日      | 成田捷明氏宅祥月               |
| 7日      | 福富ことえ氏宅法事              |
| 8日      | 出石真覚寺法事                |
| 9日      | 兼井元三郎氏宅祥月              |
| 10日     | 滋賀教区基幹運動推進委員会明石後藤博氏宅法事 |
| 11日     | 横山吉一氏宅法事               |
| 12日     | 玉日会定例法座                |
| 13日     | 京都教区基幹運動本部会議           |
| 14日～16日 | 神戸別院定例法座               |
| 17日     | 中央基幹運動委員会              |
| 18日     | 同じ                     |
| 19日     | 十六夜会定例法座               |
| 20日     | 教区連研従事者中央研修会           |
| 21日     | 同じ                     |
| 22日     | 降誕会                    |
| 23日     | 仏事理研修会                 |
| 24日     | 広報教化研究会                |
| 25日     | 町内敬老会                  |
| 26日     | 中央相談員会議                |
| 27日     | 寺族同朋講座（善立寺）みのりを聞く会     |
| 28日     | 岐阜教区基幹運動修習会            |
| 29日     | 教師修習会                  |
| 30日     | 金久三郎氏百ヶ日               |
| 31日     | 永井誠一氏宅法事               |
|         | 湯口昇司氏宅法事               |



いわがみこうに  
いちねんせいに  
なりました



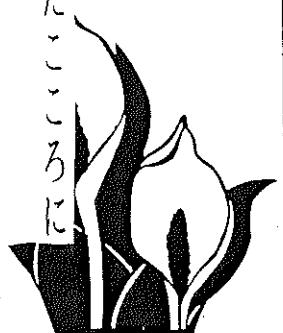
おがいりえ

## 第八期連研はじまる

第八期の出石組の連研が四月二十六日スタートしました。今期の研修員は五十七人です。勝林寺のご門徒から次ぎの方々が参加されます。最後まで精励して頂くよう応援致します。

坂本 克美様（坪口）  
中島 利一様（坪口）  
斎藤きく枝様（小田）  
田村しめの様（小田）  
浜 美知代様（小田）

老いたこころに



子供は、からだでものを知る。  
大人は、知識で世界を知る。  
老人は、こころで真実をしる。

子供は、何でも彼でも、目で見、手で触りたくて、とにかく直接からだでさわることでものを知ります。おとうさんお母さんも、オッパイにさわったりお相撲とりすることで、身体にさわって直接おぼえます。

しかしだんだん成長するに従って、からだで直接さわらなくともわかる世界を広げて行きます。

過ぎ去ったことも、記憶という頭のはたらきで思い出すことができます。直接リソゴを一つ二つと持つてみなくとも、計算や判断という頭のはたらきでその数をかぞえることができます。また直接見なくて、ウミというコトバをきけばひろい青いうみを思い浮かべることだってできます。

いまでは何億光年もはなれた宇宙の果てに起っていることでもこの知識でわかるようになりました。小さな小さな細胞のなかに書き込まれている何十億年昔からの遺伝の符号も読み取れる智慧をもっています。

ところが、このように発達し成長して、見える世界を広げて来た人間にも、やがて「老い」ということがやつてまいります。その「老い」とは、まずからだがきかなくなります。目が見えなくなり耳も遠くなり、からだ全体にぶくなつて、従つてからだできわつてものを知るということができなくなってしまいます。

また「老いる」と、頭のはたらきがだんだん鈍くなり、記憶していたものもみんな

忘れ、かぞえたり判断したりする力もない、こころで知る世界がひらけてくると言われます。

しかし老いると、からだではなく知識ではない、こころで知る世界がひらけてくると言われます。

としが寄つてはじめて人のこころの暖かさがわかつたとおっしゃるかたもあります。老人になつてしまひじみ花の愛らしさ美しさがわかつたといわれる人もあります。

いままで目で見ていた物、知識で知つていた世界、そんなものよりもっとと美しく暖かく貴いものを、老人は見ることができるのです。

身体や知識で知つたものも世界も、みな有限な物です。限りあるもの。時がたてば失われてしまうものです。

でも、年老いたこころでは、はじめて発見できたものは、そんなものではありません。

お念佛の「念」という字は、こころのなかにふくみぬましめ思つことだといいます。物や知識を超えて響いてくださる真実無限な如来さまの呼び声ナモアミダブツを、こころにふくみ思わせていただきたいものです。

**悲喜の中に  
お念佛**

赤穂南組 山崎弘子

兵庫教区門徒推進員連絡協議会

お念佛はなれどお念佛を  
なんとしても仏事・仏婦手取りあわ  
ねはなりません。ご院家さんとも総代さ  
んとも一つになつて聞法しなければなり  
ません。寺同士スクランムを組むことが大  
事です。

お互いに連絡を取り合い、互いに集いあつ  
て聞法し相談しあえる施設としての教区

## いよいよ始動

ターニー建設

お正信偈のいちばんおしまいに、親鸞さまは次のようにうたわれています。

お釈迦さまのお示しくださった眞実の経「大無量寿經」のおいわれを、かぎりない濁りと悪とのなかにいるわたしたちが、伝え弘(ひろ)め、漏れなく救おうとはたらいてくださった多くの菩薩さまや高僧がたのおしえを、わたしはいま讀えおわりました。

どうか僧侶とか僧侶でないとかのへだてなく、この世この時代に生きるひとたちがみな、共に同心に、ただこのお念佛によって、ひたすらに生き抜いてほしいものです。

「僧侶とかそうでないとかのへだてなく」とおっしゃいます。

また「共に同心に」とねがつておられます。

ところが私たちの今の現実はどうでしょ

うか。ご信心のことはお坊さんまかせ、お寺のことは総代さんまかせ、仏婦も仏事も互いに知らん顔。隣の寺になにが起こります。

うと近所の組がなにをなさろうと、銘々かつてにやつておればいい、というなかで、互いのあいだに差別がうまれ、いちばん大事なお念佛がこの世からすたつてします。

なんとしても仏事・仏婦手取りあわねはなりません。ご院家さんとも総代さんとも一つになつて聞法しなければなりません。寺同士スクランムを組むことが大事です。

教務所は現状いかにも手狭であり不備であり老朽です。

四月二十四日、この『教化センター』設立委員総会をもって、いよいよ具体的事業が動き始めました。後日趣意書などお届けするはずですが、とりあえずご理解下さいませ。

生きている心



見るんだよ

ほぐの夢が  
はいつていつて  
ふたり  
おなじ夢

お田さんが  
手をつないで  
寝ると

カット・野村玲

千里敬愛幼稚園編〔第一八集〕より